【 第10回川ごみサミット 】 2024.12/21

川ごみ対策　これまでの10年

全国川ごみネットワークはどのような役割を果したのか

2015.1月23日　第1回川ごみサミット

22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会 近藤朗

第1回川ごみサミットまでの前史

■ 1970年 廃掃法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）施行以降

- 1980年頃～ 様々なごみ拾いなど市民活動が展開される
  - ・（例）1980.8月 諏訪湖浄化対策連絡協議会設立、諏訪湖湖岸清掃など
- 1990年 国際的な海ごみ調査ICCの日本実施呼掛け
  - ・1991 ICC呼びかけ団体として JEAN 設立
  - ・2003 第1回海ごみサミット開催
    （～2016 第14回三重会議まで）

■ 2009年 海岸漂着物処理推進法施行

- 伊勢湾海洋ごみに関する環境省(2007)、三重県（2009-2010）調査実施
  - ・2012.4月 22世紀奈佐の浜プロジェクト（三重・岐阜・愛知県）が発足

■ 2015年1月 第1回川ごみサミット開催

- もはや河川のごみを拾うだけでなく、**発生や流出を抑制する時期**

第1回　川ごみサミット宣言（要旨）

山、里、まち、海へとつながる水循環の役割を果す川は、今多くの課題を抱えている。とくに私たちの生活に不可欠のプラスチック系ごみによって、河川や海洋の生態系への悪影響が懸念される事態に至っている。私たち大人世代の責任として、河川ごみを拾うだけではなく、（全ての人が）手を取って発生や流出を抑制し、行動すべき時期に来ている。そこで全国の市民団体・個人、行政、民間事業者及び研究者らの力を結集し、解決に向けた第1歩として、「第1回川ごみサミット」を開催した。

今後、この活動・行動に関わる人びとを増やしながら、当面下記の通り展開していく
またサミットを継続的に開催していく中で、短期的な成果を確認し、より良い方策を探っていく

○第1　課題の共有と目標の設定

解決に向けた話し合いの「場」を持ち、　→ **川ごみサミット** を継続開催（2024 第10回）
維持（事務局の設置）する。　→ 2015.8.7 **全国川ごみネットワーク 設立**

○第2　解決に向けた方策の検討・立案

役割分担とスケジュールを共有する。
河川の流域特性毎に行動プログラムを立案する。

○第3　行動プログラムの実行と社会的制度の整備・構築

河川協力団体制度等を活用し、全国の河川流域において行動プログラムを実施する。

2015年1月24日 第1回川ごみサミット参加者有志

第1回川ごみサミット以降の動き　I
海洋プラ汚染、マイクロプラスチック問題の顕在化・可視化

■ 2015.6月 G7エルマウ サミット(ドイツ)
首脳宣言において海洋ごみ、特にプラスチックごみが世界的な課題と認識

■ 2016.1月 世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議)の警告
何の対策もなければ 2050年 に海洋プラスチックごみが魚の量を上回る

● 2016.1.22 第2回 川ごみサミット(東京)
環境省よりマイクロプラスチック紹介、業界よりレジンペレット流出状況報告

● 2016年度～ 全国川ごみNWが「水辺のごみ見っけ」調査開始

● 2017.3.4～3.5 第3回 川ごみサミット(京都・亀岡保津川)
環境省よりマイクロプラスチック(MP)紹介、山形県飛島からMP汚染紹介

・海岸漂着物地域対策推進事業の結果から算出された全国の漂着ごみの推計量
・・・31～58万トン

※全国の漂着ごみの回収量　・・・約4.5万トン
※上記のデータはともに平成25年度のもの

4. 想定される被害
・生態系を含めた海洋環境の悪化
・船舶航行への障害
・観光・漁業への悪影響
・沿岸域居住環境の劣化

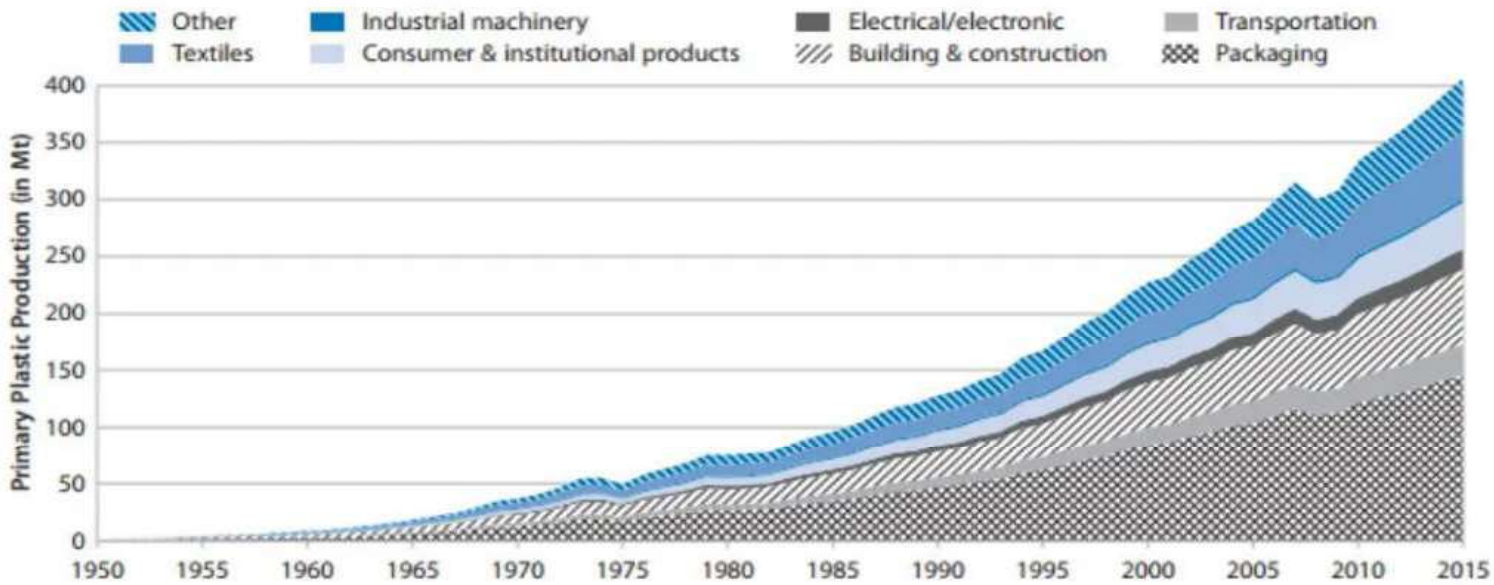
日本海沖合で採集された、発泡スチロール片

特に近年、海水中に漂うマイクロプラスチック(微細なプラスチック)が生態系に与える影響が問題に！

プラスチック汚染の危機

■ 増大するプラスチック量と危機

全世界のプラスチックの生産量は年々増加しており、1975年に5000万トンだった生産量は**2015年には4億トンに達しています**。そして、その生産ペースは加速する一方です。



出典：OECD POLICY HIGHLIGHTS Improving Markets for Recycled Plastics – Trends , Prospects and Policy Responses」)

全国川ごみネットワークHP より　NGO共同制作／ WWFジャパン、日本野鳥の会、
容器包装の3Rを進める全国ネットワーク、全国川ごみネットワーク、(協力)OWS

第1回川ごみサミット以降の動き　Ⅱ
プラスチックごみ汚染の発生源対策に向けて

■ 2018.6月 G7シャルルボア サミット（カナダ）
海洋プラスチック憲章に対して米日（トランプ、シンゾー）が署名せず

■ 2018.6月 海岸漂着物処理推進法改正　　MP対策の追加など

● 2018.7月 山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト発足

● 2018.11.24～25 第4回 川ごみサミット（長野県下諏訪）
環境省より法改正踏まえ「マイクロプラスチック対策としての発生抑制」報告

■ 2019.6月 G20大阪 サミット（日本）「ブルーオーシャンビジョン」示す
海洋プラスチックごみによる新たな汚染を2050年までにゼロを目指す

● 2019.11.9～10 第5回 川ごみサミット（徳島・吉野川）
環境省よりビジョン踏まえた「プラスチックスマートキャンペーン」報告
保津川・原田禎夫より京都亀岡市の「プラごみゼロ宣言」紹介

第1回川ごみサミット以降の動き　Ⅱ
プラスチックごみ汚染の発生源対策に向けて

■ 2020.7月 全国「レジ袋有料化」スタート

● 2021.1月 京都府亀岡市で「レジ袋禁止条例」施行

● 2021.2.22 第6回 川ごみサミット（東京・オンライン）

「使い捨てプラスチックの発生抑制」をテーマに開催 ／ 亀岡市の報告など

● 2021.6.4 減プラスチック社会を実現するNGOネットワーク始動

国への共同提言 ／ 全国川ごみネットワークも参加

第1回川ごみサミット以降の動き　Ⅲ
役割分担の共有・明確化　～ 今も残る課題 ～

■ 2021.6月 環境省がごみ対策に関する6種類のガイドマップ公表
■ 2021.7月 国交省が「流域と連携した河川ごみ対策事例集」公表

● 2021.12.19 第7回 川ごみサミット（東京・オンライン）

「河川管理者との協働に向けて」をテーマに開催
・川ごみマップ大賞（2020.6月選考）表彰
・全国9地域の国交省開発局・整備局から報告
【課題】・一般ごみにも目が向けられているか？
・ごみマップなど取組みは国交省先導で始められた ～継承されているか？
・川ごみマップなど作成されているが、市民などに浸透・活用されているか？

● 2023.1.28 第8回 川ごみサミット（東京・オンライン）
「川で拾ったごみのゆくえを考える」をテーマに開催
・河川管理者が同じ土俵に上がる仕組みが必要、法整備が重要になろう

最近の動きとして ～ 国際的協調へ ～

■ 2022.3月 国連環境総会において、プラスチック汚染に関する
国際条約を策定することを決議
～ 2024 策定を目指し現在国際的な協議を進める（日本窓口；環境省）

■ 2023.5月 G7 広島サミット（日本）
「大阪ブルーオーシャンビジョン」目標年次を 2050 → 2040 へ前倒し合意

● 2023.11.18～19 第9回 川ごみサミット（長野県・諏訪湖）
「川と海の見えないごみ マイクロプラスチックを考える」をテーマに開催
・初めてマイクロプラスチック問題を真正面に捉える
・徐放性肥料プラスチック、人工芝の問題を中心に

● 2024.8.22 減プラスチック社会を実現するNGOネットワークが
人工芝助成をやめるよう国（文科相）に要望書提出

全国川ごみネットワークの成果

■ 場の設定と運営　川ごみサミットの開催

■ 様々なセクターによるネットワークの拡大

～　設立時より全国へと広がる　　今後さらに広げていくためには何が必要か？

- 会員同士の交流による相乗効果も（例）2024諏訪湖湖浄連×奈佐の浜プロジェクト
- 国交省、環境省、自治体、業界への呼びかけ　役割分担を模索していくために
- 「減プラスチック社会を実現するNGOネットワーク」への参画

■「水辺のごみ見つけ！」全国水辺のごみ調査の展開（2016～）

～　多くの市民を巻込む　　入り口として有効、「発生抑制」に繋げるためには？

■ 学びと情報の共有「オンラインミニセミナー」（2020～）

～　今までに7回開催　　その他交流ツールとしてもオンライン活用

■ ごみ問題を伝えていくための事業展開

- 教材「海洋プラスチックごみついて考えよう」（2020）など
- 出前講座、及び「川ごみ学習ポイントブック」（2022）発刊
- 各種啓発ツールの開発　　今後どのように活用すれば効果的か？

川ごみビンゴカード、説明用ボード・タペストリー・ごみ実物パネルなど

全国川ごみネットワークの成果

全国川ごみネットワークの成果

2024.10月12日～13日に、22世紀奈佐の浜プロジェクト（三重・愛知・岐阜・静岡）と長野県諏訪湖周辺の方々（親子、大学生など）との交流が実現しごみ問題と向き合った

ふと思うこと

そもそも、ごみは誰が回収・処理すべきなのだろうか？
心ある市民は、いつまで拾い続けなくてはならないのだろうか？
ごみ拾いは重要だが、発生抑制につながるのだろうか？

2024.10月13日 第12回 答志島海岸清掃＆伊勢湾交流会
「ごみを拾い続けるだけでは何も解決しない！」をモットーに

22世紀奈佐の浜プロジェクトは2012年から現在までに伊勢湾流域圏を舞台に様々な活動を20回以上展開し（愛知・岐阜・三重県内）総参加者数は5,000名に及ぶ

吉田拓司さんを偲ぶ

水循環やごみ調査の分野で活躍されていた吉田拓司さん（八千代エンジニヤリング）は、2024年10月20日のごみ清掃活動にされた後帰路に倒れ、そのまま10月25日に帰らぬ人となってしまいました。本来であれば第10回川ごみサミットにも共に参加する予定であり、私も楽しみにしておりました。彼の遺志を引き継ぐべく、未来と向き合いたいと決意しています。

2024.9月11日 オンラインミニセミナーの吉田さん

2024.10月13日 第12回 答志島海岸清掃＆伊勢湾交流会